

2016年7月20日

日本バプテスト連盟諸教会・伝道所のみなさま

日本バプテスト連盟理事会

## なおも希望を持ち続けるために

2016年7月10日に投開票を終えた参議院通常選挙を受けて、わたしたち日本バプテスト連盟理事会は、自らの信仰に基づいて以下の意見を表明いたします。

本選挙の結果により、自公連立安倍政権下での改憲に前向きな勢力は、衆議院においても、また参議院においても3分の2以上となりました。これによって、いつでも現政権主導の改憲原案が国会で発議され、「憲法改正のための国民投票」がなされうる状況になりました。

改憲原案の内容は、2012年に発表された自由民主党改憲草案に沿ったものになることが予想されます。その内容は、立憲主義を破壊し、主権在民・基本的人権の尊重・平和主義という現憲法の三原則を否定するものであり、わたしたちはこれまでも大いに憂慮してきました。そして、今回の選挙結果は、わたしたちに深い失望感をもたらしました。

しかしわたしたちは、危機の時代にあって平和の主であるイエス・キリストを仰ぐ信仰のゆえに希望を見出します。わたしたちは、ただイエス・キリストを畏れるがゆえに、国会における数の力を恐れません。

憲法を改定するためには、「憲法審査会における条文ごとの改憲原案審議」と、「18歳以上の有権者による国民投票」という手続きを踏まねばなりません。選挙だけがわたしたちの意思を示す場面ではなく、憲法審査会への働きかけや、改憲原案への賛否を表明し仲間を募る「国民投票運動」がわたしたちにはできます。また、教会として改憲反対の意思を地域に示し、喚起し、人々とつながり、改憲反対の世論づくりに取り組むことができます。なせること、なすべきことは、まだまだたくさんあるのです。

今こそ、聖書を読み・学び、そして日本国憲法を読み・学びましょう。イエス・キリストの言葉と生から現憲法に光をあて、現憲法の豊かさに精通し、自由民主党改憲草案を批判していきましょう。

「主はその腕で力を振るい、思い上がる者を打ち散らし、権力ある者をその座から引き降ろし・・・」(ルカによる福音書1章51-52節)。

私たちは信じます。主なる神は、私たち一人ひとりが平和をつくり出す主体であり、この世の政治における主権者として「立憲主義」を尊びつつ、戦争と差別の無い社会の形成に挑んでいこうとすることを、祝福しておられるのだ、と。

平和の主の到来を待ちつつ、平和の道備えを急ぎつつ